

【第1編 経済 4-3】ユダヤ金融のルーツとは？

＜ユダヤ金融のルーツとは？＞

～世界経済を牛耳るユダヤ人の金融ビジネス～

(1)ユダヤ人(＝ヘブライ人)による金融ビジネスの始まり

①ユダヤ人は元々シナイ半島に居住(下記は Google Map より)



出典: Google Map より

②紀元前 1000 年頃

エジプト王国からの迫害を逃れるためユダヤ人は、パレスチナに移住することに(預言者モーゼ)

③紀元前 500 年頃

エルサレムに神殿が建設され、
『旧約聖書』が誕生し、
ユダヤ教が組織化



出典: Google Map より

②紀元前 1000 年頃

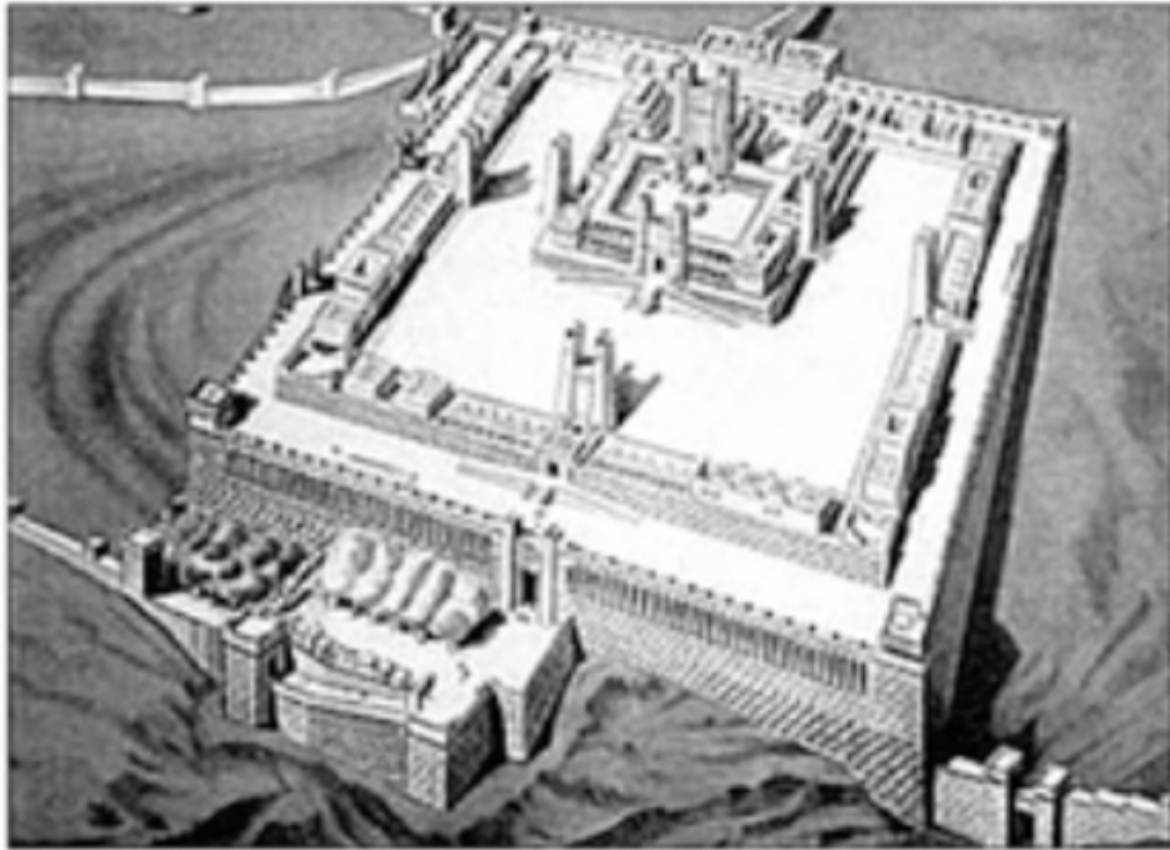
エジプト王国からの迫害を逃れるためユダヤ人は、
パレスチナに移住することに(預言者モーゼ)

③紀元前 500 年頃

エルサレムに神殿が建設され、
『旧約聖書』が誕生し、
ユダヤ教が組織化



出典: Google Map より



ユダヤ教『旧約聖書』の教え

→「金は無慈悲な主人であるが、同時に、これほど優れた召使いはいない」

cf.清貧を称賛するキリスト教とは対照的

私有財産が認められる→窃盗や略奪は厳しく罰する文化

→ユダヤ人は財産権・所有権の戒律を定めたことによって、

他民族からの信用を得ることができるようになった

→各地の富裕層はユダヤ人に資産を預けるようになった

→ユダヤ人はその保管料を徴収(手数料ビジネス)

→さらに、所有者に了解を得た上で、

第三者へ金銀を貸付、利子を稼ぐように！(利子ビジネス)

→預かった資産を担保にして債券を発行

→投資家から巨額の投資マネーを募集して、

建設業などに充て、莫大なリターンを稼いだ！

⑥金(かね)＝争いの種

→調停するためのシステムを設けた→戒律(→神)

※所有権・財産権を戒律に定めたことによって、

他民族から信用を生み、高度な金融システムが誕生！

(2) イエス・キリストとの対立

①ユダヤ教は「貧富の格差」を生んでしまう

②貧困層の救世主(メシア) イエス・キリスト



③『新約聖書』: 貧しき者こそ幸いである→清貧を称賛

→貧困層に対して救いの手を与えた

イエス・キリストは、富裕層に対して厳しい批判を浴びせ、

貧困層に対して救いの手を与えた

ユダヤ教保守派 vs. イエスたち改革派

→イエスは十字架刑に処される

→3 日後に「復活」

④イエス・キリストとの対立

『新約聖書』

お金・律法・形式を重視するパリサイ人(パリサイびと)が、
一部始終を聞いて、イエスをあざ笑っていた。

イエスは彼らに言った。

あなた方は人の前で自分を正しいとする者です。

しかし神はあなた方の心をご存知です。

人間の間で崇められる者は神の前で憎まれ、嫌われます。

※パリサイ人:ユダヤ教の保守派(戒律を重んじる人たち→富裕層が中心)

(3)金融ビジネスで世界を席卷するユダヤ人

紀元前 1 世紀 ローマが帝政に移行 ユダヤ人が迫害される

→迫害を逃れるために、ヨーロッパ各地に離散することに

→当時、卑しい職業とされていた金融業を担うことに

→ユダヤ人は『旧約聖書』で利子の徴収が認められていた！

(※ただし、ユダヤ人からは徴収してはいけない)

cf.キリスト教では利子の徴収は禁止されていた

→(神様の)時間の経過

→ユダヤ人の金融資本とネットワークが拡大することに！

①ロスチャイルド(イギリス)

②JP モルガン(アメリカ)

③ゴールドマン・サックス

④モルガン・スタンレー

⑤リーマン・ブラザーズ

⑥メリルリンチ など